

Heartful Communication Magazine

レインボーウェイ RAINBOW WAY 2022



Heartful Communication Magazine
レインボーウェイ
RAINBOW WAY 2022

一般社団法人茨城県トラック協会



Rainbow way 2022

CONTENTS

一般社団法人 茨城県トラック協会

P.04 茨城のくらしと産業を支える物流最前線

海上コンテナの輸送や積入れ・積出などを担うインランドデポ
地元企業からの輸出、地元企業への輸入貨物の取扱基地機能を担う

P.06 働きやすい職場認証で労働環境改善を推進

将来は新卒採用も視野に働きやすい職場であることを見える化
労働人口が減少する中で企業は時代の変化に応じた進化が必要

P.08 安全に取り組むトラック運送業界

20年以上前から全車両にデジタルタコグラフとドライブレコーダーを搭載
昔はまわりの車から「遅い」といわれたが法定速度での走行を徹底

P.10 環境にやさしいトラック運送業界

乳製品や冷凍食品を茨城、千葉、埼玉の3県に冷凍・冷蔵車で輸送
食品関係の取引先と協議して以前から環境に配慮した輸送を推進

P.12 茨城の物流を担うエッセンシャル・ワーカー

自分が幼稚園のころ父親が大型トラックのドライバーだった
「仕事とプライベートが両立できる」ので大型車に乗り続けたい
神山恵奈(かみやま・えな)さん

日立エリアの会社に小さな荷物や中型の荷物を配送と集荷
「納品先で『ご苦労さん』という気持ちが伝わってくる」のが嬉しい
村松健太(むらまつ・けんた)さん

P.14 社会との共生

「トラックの日」のPR活動として
千波湖周辺の清掃活動を実施

P.15 会長からのメッセージ

くらしと経済を支えるエッセンシャル・ワーカー
コロナ下でも私たちトラック運送業界は運び続けます
一般社団法人 茨城県トラック協会 会長 小倉邦義

写真:つくば市の学園西大通りを歩道橋の上から撮影(photoAC)

茨城のくらしと産業を支える 物流最前线



茨城県トラック協会には約1600の事業者が加入しています。会員事業者は県内で製造された荷物を日本全国に運んでいます。また、輸出される荷物は国際港や国際空港まで運びます。反対に輸入された荷物を港や空港から県内に運んできます。そのような事業者のつくば支店を訪ねました。この事業者は本社が神栖市にあり東京、東北、下関、つくばの4支店、埼玉、名古屋、千葉、富士、相馬、ひたちなかの6営業所、また梱包業務を請け負うなどの、その他の関連会社も持っています。最近はSDGs（持続可能な開発目標）と言う言葉を耳にしますが、この支店ではリサイクル物流などのリバースロジスティクスと、海上コンテナ輸送と積入れや積出し作業を主体に様々な貨物輸送を行っています。

海上コンテナの輸送や積入れ・積出しなどを行なうインランドデポ*
地元企業からの輸出、地元企業への輸入貨物の取扱基地機能を担う



います（反対に荷物を取り出す作業はデバンニング）。海上コンテナはトレーラで輸出港まで運びます。輸送先は東京港や横浜港、一部は常陸那珂港*もあります。それらの港からは輸入された海上コンテナの輸送もします。輸送先は主に県内（つくば周辺）ですが、首都圏や北関東ぐらいの範囲です。本来、輸入で使用した海上コンテナは、輸入された港へ空のまま返却します。つくば支店では、輸入後、空になつた海上コンテナを一時預かりします。そのコンテナに輸出用貨物を積み込み、輸出港まで運ぶことが出来ます。

このようにコンテナを効率的にオペレーションすることをラウンドユースといい、輸送距離を短縮する事でCO₂を削減しています。

茨城県内には大手製造業の工場がたくさんあり、国内だけでなく、輸出向けの製品も製造しています。また、海外から輸入される荷物もあります。これら輸出や輸入の荷物は海上コンテナで運ばれます。それをトレーラで運ぶのが海上コンテナ輸送です。

地元の工場で作られた輸出用荷物を集荷します。インランドデポ（保税蔵置場）の許可を持っていますから、敷地内でコンテナに積み込む作業をします。これをバンニングといいます。

*インランドデポ=港や空港から離れた内陸部で保証蔵置場として許可された土地や建物
*常陸那珂港=正式には茨城港常陸那珂港区

くば支店にはトレーラのヘッド（けん引車）が12台、シャーシ（被けん引車）が8台、その他にはパルク（粉体）車、ダンプトレーラ、スライド型箱車、ワイング車、平ボディ車などのトラックが26台あります。支店で働いている社員はドライバーが26人、倉庫など庫内作業や事務職が24人です。取り扱っている荷物は海上コンテナ、廃棄物収集運搬、飼料、石油化学製品、木材、その他がありますが、ここでは主に輸出入に関わる海上コンテナの輸送について、どのような仕事をしているのかを紹介します。

働きやすい職場認証で 労働環境改善を推進

将来は新卒採用も視野に
働きやすい職場であることを
見える化

労働人口が減少する中で

企業は時代の変化に

応じた進化が必要



くば市のこの事業者はトラック運送、家庭ゴミや企業ゴミの収集運搬などしています。車両はトレーラのヘッド（けん引車）が3台、シャーシ（けん引車）が6台、その他に大型車や4t車、2t車など31台です。社員は29人でうち27人がドライバーです。

仕事の内容は、鉄鋼（鉄板）輸送、リサイクル用に圧縮された空のペットボトルの輸送、飲料水、肥料などの輸送です。このうち鉄板は土浦市神立から県内の各工場に輸送しています。飲料は県内にある大手飲料メーカーの製品輸送で、肥料は鹿嶋市から群馬県や新潟県に運んでいます。つくば市の一般家庭から排出されるゴミの収集・運搬も受託しています。ペットボトルのリサイクルでは、空のペットボトルを集めて圧縮

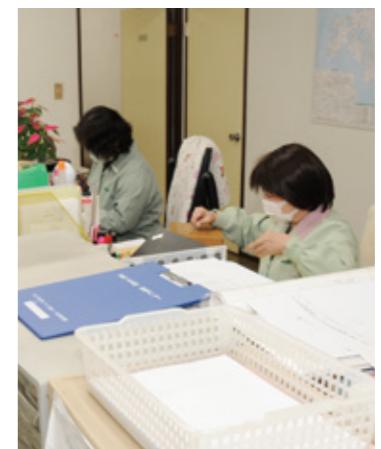
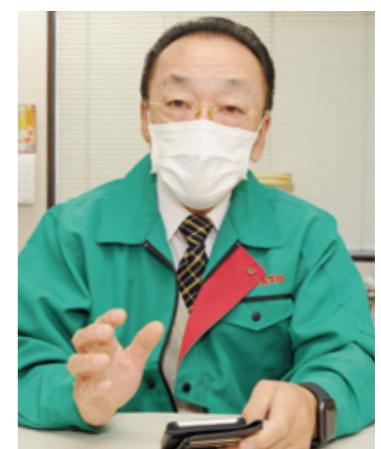
する各地のクリーンセンターに引き取りに行き、境・古河にあるリサイクルセンターに運んでいます。

運送業はドライバーがないと成り立たない仕事という考え方に基づき、これまでも働く環境の改善に努めてきました。現在、若いドライバーでは20歳代が3人、30歳前半が1人、それに女性ドライバーも1人います。しかし、これから日本では若い人が減少していきます。そのような中で企業も時代の変化に応じて進化していくかなければなりません。

この運送会社ではトラック協会が開いた働きやすい職場認証制度の説明会に出席し、申請して認証を取得することができました。これまでも労働環境改善に取り組んできたのでスムーズに認証取得ができましたが、今後は認証をアピールして新卒採用も考えています。

働きやすい職場認証制度は、自動車運送事業（トラック・バス・タクシー事業）のドライバーへの就職を促進するため、事業者の職場環境改善の取り組みを見える化する認証制度です。国土交通省が2020年8月に創設し、認証実施機関の指定を受けた日本海事協会が審査、認証を行っています。①法令順守等、②労働時間・休日、③心身の健康、④安心・安定、⑤多様な人材の確保・育成について要件を満たせば1つ星認証を取得できます。

**20年以上前から全車両にデジタルタコグラフとドライブレコーダーを搭載
昔はまわりの車から「遅い」といわれたが法定速度での走行を徹底**



筑 西市のこの事業者は2t車と4t車を合わせて39台保有し、ドライバーが30人います。主に輸送している荷物はユニットバスやコンピュータの原材料などです。ユニットバスは地元の工場から関東一円に運んでいます。また、コンピュータ

安全性優良事業所（Gマーク）は、安全性に対する法令順守の状況、事故や違反の状況、安全性に対する取り組みの積極性の3項目の評価が一定の点数以上で、その他の要件もクリアすると全国貨物自動車運送適正化事業実施機関が認定する制度です。認定を受けた事業所に所属するトラックには「G」マークのステッカーを貼ることができます。有効期限があつて、継続するには更新申請が必要です。

の原材料は、地元の工場から関東一円だけでなく、遠方では富山県や山形県、また大阪府などにも運びます。コンピュータに使われる原材料なので温度管理が必要なため4t冷凍車で運びます。

トラック運送は道路を使って荷物



を運びますから、交通事故防止など安全管理が重要です。そこでこの事業者は2000年にデジタルタコグラフとドライブレコーダーを全車両に搭載しました。当時、トラック用のドライブレコーダーの開発を進めていたメーカーに協力して、モニターリ的に導入したといいます。費用が掛かっても、安全を買って安全管理を徹底するという考え方です。また、会社として法定速度での走行を決定し、全社員に徹底しました。当時は、まわりの車から「遅い」と嫌がらせをされたようです。

さらに全ドライバーに会社の携帯電話を持たせるようにもしました。現在はスマートフォンですが、緊急連絡の電話連絡を除けば、通常の業務連絡はメールで行っています。また、スマフォにナビ機能をダウンロードしてカーナビとしても利用しています。

この事業者は、最近は荷主企業から「Gマーク認定会社ですね」といわれることもあるそうです。取引先にGマークが少しずつ浸透してきたことを実感しているようです。





環境にやさしい
トラック運送業界



乳製品や冷凍食品を茨城、千葉、
埼玉の3県に冷凍・冷蔵車で輸送

以前から環境に配慮した輸送を推進
食品関係の取引先と協議して

グリーン経営（環境負荷の少ない事業経営）は、ISO14031（環境パフォーマンス評価に関する国際規格）の考え方に基づき、環境保全のために必要な項目や目標を設定し、一定レベル以上の取り組みを行っている事業者を交通エコロジー・モビリティ財団が認証する制度です。



多くの山武市にも営業所があります。会社全体では140台のトラックを保有し、従業員は90人です。そのうち守谷営業所はトラックが25台で、従業員が24人です。本社では海上コンテナ輸送や鉄鋼輸送なども行っていますが、食品が90%を占めています。守谷営業所は100%が乳製品や冷凍食品の取り扱いで、常温、冷蔵、冷凍の3温度帯の商品輸送をしています。守谷からの輸送エリアは茨城県内と千葉県、埼玉県で、スーパーの物流センターへの納品や、取引先の工場間輸送、各家庭に牛乳を宅配する人たちの中継場所への輸送などを行っています。

輸送商品が食品ですから、取引先も環境保全などには力を入れています。この会社も取引先と話し合って、グリーン経営認証制度ができた当初から認証を取得していますが、「グリーン経営認証永年表彰」も受けています。営業所では安全性優良事業所（Gマーク）認定も取得していますが、ドライバーの人たちちは、他社のドライバーの人たちから「お宅は安全や安心、環境に力を入れている会社だね」といわれることもあるようです。

最近はSDGs（持続可能な開発目標）に力を入れる会社が増えてきました。とくに食品を取り扱っているメーカーなどは、安全管理、衛生管理とともに輸配送の物流においてもCO₂排出の削減など環境負荷の軽減に力を入れています。守谷市にあるこの運送会社は、本社が千葉県市川市にある運送会社の営業所です。この会社は成田空港近



自分が幼稚園のころ父親が大型トラックのドライバーだった「仕事とプライベートが両立できる」ので大型車に乗り続けたい

神山恵奈（かみやま・えな）さん

これまで派遣の仕事や高齢者福祉施設で清掃の仕事を経験してきた神山恵奈さん。中学生の長男、小学生の長女と次男の3人の母親です。現在は境町に本社営業所のある運送会社で大型車のドライバーとして働いています。「求人募集に仕事とプライベートの両立と書いてあった」ことが応募した一番の理由でした。入社して約3年半です。



神山さんは大型トラック（10t車）に乗務しています。朝8時に営業所を出発し、圏央道を使って春日部市（埼玉県）にある取引先の工場に行き、建設機械の部品をトラックに積みます。入社時には普通免許だけでしたが、その後、大型免許を取りました。また、フォークリフトの免許も会社で取らせてもらいました。

自分でフォークリフトを操作してトラックに荷物を積み込みます。荷物は建設機械の部品で、竜ヶ崎市や土浦市にある工場に運びます。工場の中でも何カ所かに荷物を下ろしたり、いくつかの工場に納品することもあります。全部の納品が終わるのは14時30分から15時ごろで、営業所に戻るのが16時30分から17時ぐらいです。



「幼稚園のころ父親が大型トラックのドライバーをしていました」。大型トラックの運転は、小さい時からの憧れだったようです。納品力が多いため大型トラックを運転できて、取引先などいろいろな人と会えるのが楽しい」といいます。

土日と祝祭日が休みなので、子育てをしながら柔軟な働き方ができる今の仕事が好きで、「これからも大型トラックに乗り続けたい」と話しています。

日立エリアの会社に小さな荷物や中型の荷物を配送と集荷「納品先で『ご苦労さん』という気持ちが伝わってくる」のが嬉しい

村松健太（むらまつ・けんた）さん

日立市にある運送会社の日立営業所で2t車に乗務して働いている村松健太さん。現在の会社に入る前は、自動販売機などに飲料水を運んで売れた分を補充し、代金を回収する仕事をしていました。しかし、昨年8月に先輩の紹介で今の会社に転職しました。「通勤できない遠方への転勤の話しがあった」からです。入社約半年の村松さんに話を聞きました。



村松さんが18歳になつた時に運転免許制度が変わり、普通免許取得とほぼ同時に準中型免許も取れるようになりました。そこで村松さんは18歳で準中型免許を自分で取りました。自販機などに飲料水を補充する仕事でも準中型免許が必要だったからです。



高萩市出身の村松さんは、今でも高萩から日立駅近くの営業所に通勤しています。車で約30分です。出社は朝8時で、点呼などをすませて9時には出発します。乗務しているのは2t車で、企業間の小さな荷物や中型の荷物を積み合させて配達や集荷をする仕事をしています。村松さんが配達や集荷をしている日立エリアには企業がたくさんあるので、配達する荷物も出荷される荷物も多く、コースを決めて8人で配配をしています。

配達は午前と午後の2回ですが、午前は配達の荷物が多く、午後は集荷の

荷物がたくさんあります。それでも17時には仕事が終わり、基本的には土日が休みなので、以前の仕事と比べると「コロナで遊びには行けないが、時間がハツキリしていてプライベートな時間が取れるので今の仕事は良い」といいます。また、仕事も楽しいようです。「納品先で担当の方と話すのが好きで、言葉には出さないが『ご苦労さん』という気持ちが伝わると嬉しい」と話してくれました。



発行日 2022年3月31日

発行所 一般社団法人 茨城県トラック協会

取材協力 (順不同)

桜南運輸 有限会社
株式会社 トマト
株式会社 中山運輸
日立地区通運 株式会社
みなど運送 株式会社
ヤマニ屋物流サービス 株式会社

制作 有限会社 物流ジャーナリスト倶楽部

スタッフ Design by maxDesign
Photo & Text by F.Morita
(写真の一部は取材先からの提供もあります)

一般社団法人 茨城県トラック協会
〒310-0913 水戸市見川町2440-1
TEL 029-303-6363 FAX 029-243-5936
ホームページ <https://www.ibatokyo.or.jp>
(無断転載禁ズ)

会長からのメッセージ

くらしと経済を支える
エッセンシャル・ワーカー
コロナ下でも私たち
トラック運送業界は運び続けます



一般社団法人 茨城県トラック協会
会長 小倉 邦義

トラック運送は国内貨物輸送量の9割以上を担っています。皆さんの日々の生活に欠かせない食品、飲料、日用雑貨や、企業の経済活動に必要な生産材など様々な荷物を運んでいる基幹産業です。

また近年は、自然災害が頻発するようになりました。全国のトラック協会では国や都道府県、市町村などと協定を結び、災害時などの緊急物資輸送においても、ライフラインの一翼を担う産業としての役割を果たしています。

さらに、新型コロナウイルスが蔓延する中にあっても、感染防止に努めながら、くらしと経済活動に欠かせないあらゆる荷物を運び続けています。最近は在宅勤務や外出自粛などでネット通販が増加していますが、このラスト・ワン・マイルを担っているのも私たちです。医療関係者、介護・福祉関係者、小売業、公共交通機関などとともに、トラック運送業で働いている私たちもエッセンシャル・ワーカーの一員です。しかし、そのような役割を果たしているにもかかわらず、現場の第一線で働いているドライバーに、残念ながら心無い言葉を投げかけられることもあります。

「レインボーウェイ」は一人でも多くの皆さんに、私たちトラック運送業界の実際の姿を紹介し、業界の仕事や役割をご理解いただきたいという目的で発行しています。とりわけ若い皆さんにはトラック運送や物流の仕事を知っていただき、エッセンシャル・ワーカーとして私たちの業界を支える人材になって欲しいと願っています。



10月9日は「トラックの日」です。全国のトラック協会では10月9日あるいはその前後に様々なイベントを開催したりPR活動などを行います。茨城県トラック協会でも地域ごとにある13の支部で、それぞれ「トラックの日」の取り組みをしました。その中の水戸支部では「トラックの日」の翌日の日曜日に千波湖周辺の清掃活動をしました。



社会との共生
千波湖周辺の
PR活動として
清掃活動を実施
「トラックの日」の



水戸支部ではここ数年、「トラックの日」のPR活動として黄門マラソン応援隊に参加してきました。コースの何カ所かに設けられた給水所で、ランナーの人たちに飲料水を渡したりする活動です。しかし、新型コロナ感染防止のため、昨年に続いて昨年も黄門マラソンが中止になりました。そこで、昨年と同様に昨年10月10日に千波湖周辺の清掃活動を行いました。

参加者は軽装に運動靴で8時30分に千波湖のSL機関車前に集合し、トラック協会の緑色の揃いのベストを着用。挨拶などをして、9時からゴミ袋な



どを持って千波湖を一周してゴミを拾いました。
千波湖畔の遊歩道は、さすがにゴミが少なかつたようです。しかし、外からは見えづらい植え込みの中には空き缶などが捨てられていました。また、岸に近い水面にはビニールなどのゴミが浮いていたので、それらを拾い集めてきれいにしました。

どを持って千波湖を一周してゴミを拾いました。
千波湖畔の遊歩道は、さすがにゴミが少なかつたようです。しかし、外からは見えづらい植え込みの中には空き缶などが捨てられていました。また、岸に近い水面にはビニールなどのゴミが浮いていたので、それらを拾い集めてきれいにしました。